

「絶滅危惧種にどう対応すべきか？」

2018年3月17日(土) 15:00-17:00

参加：15名

司会・文責：堀越

1. 概要：

- ・総勢15名(今回初参加者はなし)で、主に、絶滅危惧種の種類によって保護をしたり、何もしていなかったりする現状を認識し合い、その対応が人間中心主義的か、恣意的か、どう対応すべきなのかを対話し、考えた。

2. 対話：

(0) 問いの提起と立場の確認

- ・進行からパンダ(シャンシャン)および一部が絶滅したチビゴミムシ亜科・属*1を例に挙げて、絶滅危惧種にどう対応すべきかを訊いてみた。①絶滅危惧種を無条件に(人間の恣意性を排除して)保護する：6人、②絶滅危惧種の中から人間が(恣意的に)対象を決めて保護する：5人、③絶滅危惧種には何もなくてよい：1人、④分からない：1人。

*1：訂正)当日進行から「チビゴミムシは絶滅した種」と説明したが誤り。「チビゴミムシ」は種ではなく亜科・属の名称で「チビゴミムシ亜科・属の一部の種類が絶滅した」が正しい説明でした。

(1) 人間活動の現状認識

- ・現在の状況は人間の自己満足ではないか。トキは、繁殖が困難とされているにも関わらず、繰り返し多大な努力して試行を行っており大切にしている。減らすのも保護も人間が勝手に行っている。
- ・確認だが、生物種の数が増えることに対して賛成と思う人はいるか。→参加者にはいなかった。

(2) 現状認識のどこに問題があるのか？

- ・生物種の数が増えるという現象を考えると、仮に人間活動とは関係がなくても減少の絶対数が問題か、減少の絶対数は関係なく人間活動と関係があることが問題か、どちらがより問題と考えるのか。→人間活動で種が減る分が相当急増しているという認識で、人間活動の関与の方がより問題と思う。
- ・「セミもゴキブリも大嫌いでなくなれ」と思っているが、もし科学者が自然の生態系には影響はないと証明したとしたら、両種が絶滅しても問題はないと思うか。
- ・一方で、種の数が増えたら獲ってもいいということがよく分からない。人間活動に起因しているか、自然の摂理の一部かの区別が付かないのではないか。
- ・パンダは保護するが、チビゴミムシは保護しなかったという点について、ムシは食物連鎖下部に位置するため、絶対数が多いこと、同様の種も他に多くあることが影響していないか。→パンダはクマ科で、他にもツキノワグマやシロクマ等のクマ科の種はあり、パンダを積極的に保護すべき理由にならないのではないか。むしろ、政治的に利用価値がある、また、あの独特な垂れ眼に見える可愛さが人間に人気があり経済的価値があるという理由から保護されているのではないか。

(3) 人間の関与：人間中心主義的な考え方なのか？

- ・人間に影響がありなしとは関係なく、自然のサイクル(=生態系)は保護されるべきと思うか。→人間が崩してはいけないと思う。→なぜそう思うのか？→人間が崩したか否かは関係なく崩れること自体が問題で、崩れたときは人間が元に戻すべきである。→崩れること自体が問題か。何らかの代替方法でその崩れを補うことができればいいのか。→その崩れを補う代替方法とは具体的にどんな方法か。→人間への影響有無が代替方法となり得るか。→その崩れを補う代替方法であれば、それは人間中心主義的な考えとなるが、そういう理解か。→その通り。
- ・自分自身はムシには感情移入ができないが、仮に自分が好きな人には大好きなムシがいたとしたら、そのムシを保護すべきと思うか。→個人レベルから周りの他者へ範囲が拡張されてはいるが、その考え方も突き詰めれば、人間が恣意的に決めているので、人間中心主義ではないか。→人間中心主義でいいではないか。周りに迷惑をかけることはダメだが、ある意味勝手にいいと思う。→人間中心主義的な考えで止むを得ないが、恣意的であるという意識を持っていることは必要と思う。
- ・ノアの箱舟(旧約聖書)を思い出す。地球上にある生物種を全てつがいで船に乗せ、保護するというこの話が現代にも絡んでいて、生態系は保存しなくてはならないと考える人が多いのではないか。

(4) 恣意的および人間中心主義的について

- ・人間全体と主語として話をしているが、私自身は何かを恣意的に保護する活動には関わってきていない。国際機関が恣意的な判断で種数を計数してレッドリストを作成しているかもしれないし、それを恣意的な解釈で特定種にクローズアップして保護活動をしている団体はあるが、恣意的な判断は個人の側ではなく、保護活動を推進している団体の側にあるのではないか。→国際機関が作成するレッドリストは、恣意的ではなく、客観的なデータで作成しているはずである。
- ・恣意的、人間中心主義的とはどういう意味か。→人間には、人間の知ることができる範囲でしか物事を知ることができない。だから、人間が行うことはどんなことをしても人間中心主義でしかできない。恣意的とは、自分の言葉で言えば、ファン根性である。→一般的に言い直すと、恣意的とは何か対象を好きか嫌いかで判断することである。→人間の営み全体を考えると、例えば、人間の欲を制限する等してどうにかしないといけない。→どうして人間の営み全体をどうにかしないといけないと考えるのか。

(5) 人間(活動)は自然の一部か？

- ・人間活動は自然の一部か。そうではなく、人間活動は自然とは排反的で並立していると考えられるのか。→人間活動は自然の一部と考えざるを得ないが、人間以外の影響と比べ人間活動の影響は極めて大きい(例：プラスチック微粒子の問題)ため、人間がどうにかしないといけないと思う。
- その影響を測るときにも、人間の住み易さ、難さで測るなら、人間中心主義である。
- ・「セミは不快だが仕方がない」と考える時間が必要なのでそういう種の存在は保護した方がいい。こういう時間がないと、人間がだらしくなってしまう。→これも人間中心主義ではないか。
- 人間中心主義だが、その範囲を緩めることができると考えて、拡張していくことが必要で、そうすることで、自然を回復可能な状態に維持できるのではないか。
- ・冒頭の質問を再度訊くと①：3人、②：1人、③：1人、④：8人となり、④分からない人が増えた。

3. まとめ：

- ・対話終了時には、絶滅危惧種にどう対応すべきか分からなくなった人の割合が増えたようである。人間活動が自然の一部と考えるか否かについては深める時間がなくなってしまったので、読者の黙考に委ねたい。